

水産

ウナギの一生は不思議がいっぱい

暑い夏がやってきました。土用の丑の日になると、大勢の人がウナギのかば焼きを食べるなど、ウナギはなじみの深い魚です。皆さんの中にもウナギの好きな人がいるかもしれませんね。



大きくなったウナギの姿はよく目にしますが、小さな時期は他の魚と違うところが多く、いろいろな不思議なことの多い魚です。ウナギの赤ちゃん・仔魚は、他の魚と違って大きくなる途中でレプトケファルス幼生という木の葉のような形になったあと、大人と同じような細長い形に変わっていきます。また、卵から大人と同じような形になるまで他の魚よりも長い時間がかかります。

マダイやヒラメなどは、卵から大人まで人工的に育てることが出来るようになっていますが、ウナギは他の魚と違うところが多いため、卵から人工的に育てることは、長い間できませんでした。マダイやヒラメは、「わむし」という小さな生物を与えることで、卵から育てることが出来ますが、ウナギ

に同じ方法を使っても大きくすることはできません。

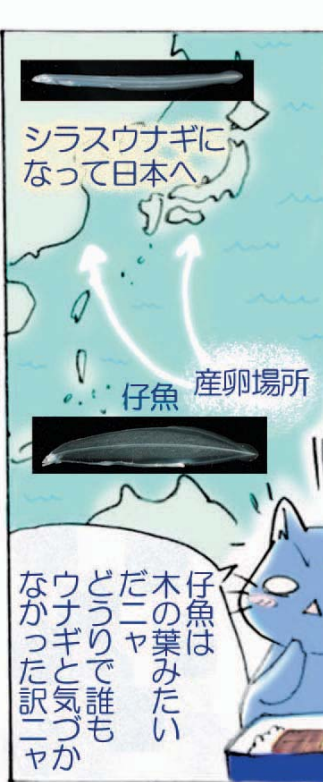
そのため、いろいろなものをウナギの仔魚に与えてみて好きなものをさがしたり、心地のよい飼いや方を調べたりしてきました。その結果、仔魚はサメの卵が好きなことがわかり、それにいろいろな栄養剤を加えた特別なえさを考えて、人工的にウナギの子ども（シラスウナギ）を育てることが出来るようになりました。研究段階ですが、今では卵から育てられたウナギが大きくなっています。



いま皆さんが食べているウナギは、天然の子どもを捕まえてきて大きく育てたものですが、皆さんが大きくなったころには、卵から育てられたウナギを食べられるようになっていくかもしれません。

ウナギの子をシラスウナギって言うけど、それを捕まえて育てるんだよ

え？卵からじゃダメなの？



何百年も長い間ウナギの卵や仔魚のことは謎だったんだから、子を捕まえて養殖するしかなかったんだよ

仔魚は木の葉みたいだニヤ

どつりで誰もウナギと気づかなかった訳ニヤ